



希望図書の出貸が始まりました

9月に実施した新刊希望アンケートを参考に購入した本を紹介します。内容などを検討し全ての希望に添えないものもありました。貸出準備ができたものから、図書館前の展示棚に出しています。貸出を希望する生徒は図書館に申し出てください。

 <p>『アノマロカリス解体新書』 土屋健 ブックマン社</p> <p>「奇妙なエビ」が「カンブリア紀の王者」となるまでの戸惑いと熱狂の130年史、一あるいはその経過報告書。捕食シーンを再現したAR（拡張現実）付。あなたのスマホでリアルに動く。</p>	 <p>『Betta 2020 Siamese Fighting fish Photograph Collection』山崎浩二 ファンタジーワールド</p> <p>世界中で愛される「泳ぐ宝石」タイ王国の国宝級熱帯魚「ベタ」の魅力が満載！世界初の2020個体を掲載した豪華写真集！</p>
<p>『青春ブタ野郎は迷えるシンガーの夢を見ない』 鴨志田一 KADOKAWA</p> <p>忘れられない高校生活も終わり、咲太たちは大学生に。新しい場所、新しい人との出会いの中で、咲太たちの思春期はまだ終わらない。新たな物語の始まりを告げる。</p> 	 <p>『私、能力は平均値でって言ったよね！ God bless me?!』 FUNA アース・スターエンターテインメント</p> <p>『次の人生、能力は平均値でお願いします！』なのに、何だか話が違ふよ！普通に生きていきます！だって、私はごく普通の、平凡な女の子なんだから！</p>
 <p>『アニメ私塾流 最高の絵と人生の描き方』室井康雄 エクスナレッジ</p> <p>絵は、才能やセンスだけじゃない。マネすればうまくなる。画力は技術である。</p>	 <p>『糸』林民夫 幻冬舎</p> <p>遠い空の下、互いを思いながらも、すれ違いと別れを繰り返す二人。それぞれの人生を歩んできた男女が、再び巡り逢うまでの物語。</p>
<p>『〇×でわかる風景作画』 さけハラス KADOKAWA</p> <p>本書は、NG例を参考にしながら、どこがイマイチでそれをどのように直していけばよいかを、〇×というわかりやすい形式で解説します。</p> 	<p>『ゼロから学ぶプロの技法』 toshi KADOKAWA</p> <p>イラストを描く上で必ずはまる問題を、Q&A式でていねいに解説。基礎から応用表現まで、段階的に説明。ゼロからプロの技が学べます。</p> 



新聞読んでいますか？

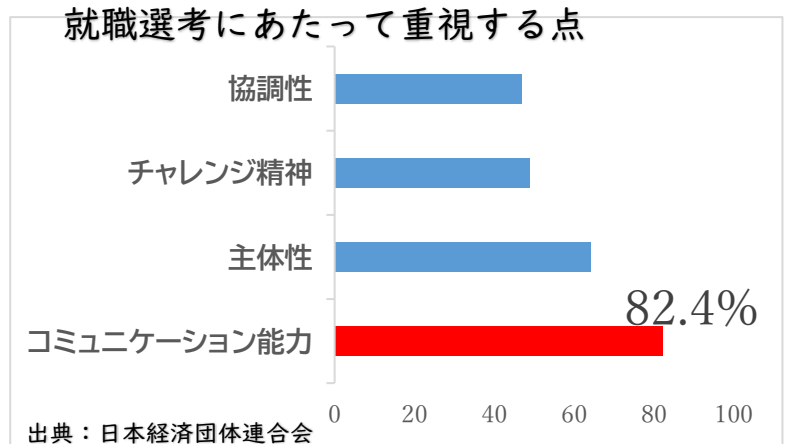
新聞週間は10月15日から始まる1週間です。新聞週間中の日曜日は新聞配達の日、10月20日は新聞広告の日と10月は新聞に関する記念日や記念行事が続きます。

新聞を読むメリットとは？

「学び」「生活に役立つ」「仕事で役立つ」の3つがあげられますが、就職・進学に向けて動き始めている3年生に向け今回は「仕事に役立つ」を紹介していきます。

右のグラフは日本経済団体連合会が行った「新卒採用時に関する調査」(2018)の中で、「選考で重視する点」を参考としてまとめたものです。上位4つを抜き出してみました。

「コミュニケーション能力」が16年連続第1位、「主体性」は10年連続第2位となっています。



この調査と新聞を読むことに関係なんてないと思うかもしれませんが実は、大きく関係しています。新聞には情報がつまっています。この中から、自分の仕事に関わる情報や問題を知っておくと、職場でのコミュニケーションの時にも役立ちます。社会人としてのコミュニケーション能力のレベルも上がります。進学を希望している人も、これから学ぶ分野に関する記事を読んでおくのも大切です。

新聞記事を全て読むのは大人でも大変。しかし、興味のある記事に目を通す習慣をつけておくと社会に出た時に役に立ちます。

図書館で購読している新聞

(全国紙) 朝日新聞

(地方紙) ※山形新聞、荘内日報

※の新聞は進路指導室にもあります。



『水を縫う』寺地はるな 集英社

どくしょノート
司書のおすすめ本を紹介します。

【 あらすじ 】「男なのに」刺繍が好きな弟の清澄。「女なのに」かわいいものが苦手な姉の水青。「愛情豊かな母親」になれなかったさつ子。「まっとうな父親」になれなかった全と、その友人・黒田。「いいお嫁さん」になるよう育てられた祖母・文枝。普通の人なんていない。普通の家族なんてない。世の中の“普通”を踏み越えていく、6人の家族の物語。

姉の結婚が決まり、清澄は姉のためにウエディングドレスを作ると言い出します。姉・水青の要望する女性らしさが出ないドレス作りは悪戦苦闘。清澄は父・全の助けを借りて形になったウエディングドレスに水の刺繍を施していきます。この家族は世間一般の「らしさ」に違和感を持ちながら、自分の好きなことに打ち込んでいます。私たちは「らしさ」「こうあるべき」という価値観の中で生活しています。そこから外れた人を見ると、「変わっている」「らしくない」と思い込みます。自分のわからない感覚を理解することは、大人になっても難しいことです。そんな時、この小説に出てくる家族のようにお互いを尊重し認めることができれば、世界が広がりより成長させてくれるきっかけになるのだと読み終わって感じました。